



利用者の減少、続く赤字経営――

村営バスを考える

村民の皆さんの交通手段として欠かせない村営バス。しかし、利用者は年々減り続け、あまり利用されていないという現状です。JRバス（旧国鉄）の廃止に伴い、平成7年3月1日から運行された村営バスは、利用者の減少などで年間800万円を超える赤字やバスの老朽化など、今、新たな岐路に立たされています。今月は、今年6月に行った、「村営バスに関するアンケート調査」の結果をお知らせしながら、今後の村営バスについて考えます。

経緯 生活路線の利用者が激減 JRバスやむなく廃止

昭和23年から運行してきたJRバスの陸中海岸線（陸中野田～普代駅前～北山崎展望台）は開業当時、通勤、通学など住民の足として、観光客の交通手段として長年利用されてきました。

昭和50年に入って急速な自家用車の普及と道路網が整備されるに従い、生活路線バスとしての利用は激減しました。平成4年度の利用者は5万2195人。この年度をピ

ークに平成5年度は3万1755人と年々利用者は減り続け、平成7年3月1日、JRバスは廃止に至りました。

村営バスは、このJRバスの廃止に伴い、新しい住民の足としてスタート。運行コースは2路線で、黒崎線（普代駅前～くろさき荘経由～北山崎展望台間）と堀内線（普代駅～堀内間）でした。

バス停留所は全部で20カ所。三陸鉄道北リアス線の列



JRバスの廃止に伴い運行される村営バス。写真は平成7年3月1日、出発式の様子

車へ接続させ、通勤や通学、通院など、皆さんの足として利便性の高いバス体系に努力しました。

普代駅に停車する村営バス。交通手段のない方にはなくてはならない存在なのですが…